

学校配置や学校規模の考え方について

◎ 学校配置の考え方に関する主な意見

・地域における高校の存在意義は非常に大きいため、第3期県立高校将来構想の学校配置の考え方が一番の基本になると思う。すべての子供たちの教育の機会均等であるとか、あるいは地域的なまとまりの中で、子供たちが通えるその選択肢をしっかりと確保していくことは非常に重要なことであって、今後土台としては揺るぎないものと思っている。

・今後生徒数が減少することを考えると、すべての地区で生徒の希望に沿った教育機会均等を確保することは現実的には非常に難しいと感じている。少人数でギリギリまで存続が可能であれば、もちろん維持すべきだと思うが、その後、どうしても維持が難しくなった場合に、統廃合という形になると思う。その再編基準を今から決めることは非常に重要だと思う。廃校とした場合、ICTを活用した遠隔授業をするとか、学生寮を整理するというように、様々な選択肢を準備する必要があると思う。

◎ 普通科の在り方に関する主な意見

・学際領域や地域社会の普通科改革など、魅力ある普通科にしていくことは地域では重要になってくると思う。そのためには学校任せではなく、高校だけの力だけではなく、外部との連携が重要だと考えている。

・地域進学重点校に入学する生徒は4年制大学への進学を望んでいる生徒だけではないような気もする。地域を担ってくれる人材育成についても地域進学重点校に求められている姿ではないかという気もしている。方向性（案）で示されている普通科改革や他県の普通科改革の取組を見ると非常に魅力を感じた。

・宮城県は国際卓越研究大学に認定予定の東北大学と県立の宮城大学があるため、大学生や大学院生をリソースとして使わない手は無く、それが眠れる資源なのではないかと考えている。例えば県立の高大一貫コースなど、7年間かけて宮城の産業や地域課題を解決していく真のリーダーを育てていくというようなコースの設立も、普通科の特色づくりとしてあるのではないかと思っている。

◎ 専門学科の在り方に関する主な意見

・最先端技術を取り入れた農業、水産業、林業などを教えてもらえる学校ができると、県内だけではなく、県外からも生徒が来るのではないかと思う。宮城県は自然に恵まれていて、実地研修ができるので、それを生かして、日本一の専門学科を作ることも狙っても良いのではないか。

・普通科、専門学科の2つに分けるというだけではなく、幅広い選択肢から選択ができるという観点から、様々な学科の在り方についても工夫ができるのではないかと思っている。例えば、工業高校の学科の考え方について、情報通信がこれほど発展していく中で、どのように学科改編をしていけば良いのか、今、社会が大きく動いているので普通科と専門学科を合わせた形など工夫の考え方があるのではないかと感じている。

・大河原産業高校は県内で唯一森林や林業が学べる教育課程があり演習林もあるため、県内の農業高校で森林に興味がある生徒達を例えば夏休み期間中に受け入れる、あるいは本校では柴田農林高校の畜産部門を廃止したため、畜産などを学びたい本校の生徒は、宮城農業高校や加美農業高校などに夏休み期間中に短期間の研修に行くといった取組を県内の農業高校で連携できないか。

◎ 多様な生徒のニーズへの対応に関する主な意見

・町内の学校に登校していない生徒は通信制に通っている現状があるが、学校規模が小さくなっていけばいくほど、さらに選択肢が限られ、そういった子供達がどこに行けばよいのかという感じがした。

・アイデアルスクールについては、少子化が進む中で、どのような地域に住んでいても、十分な、あるいは等しい教育機会を得られるチャンスを広げる、突破口になる可能性があるのではないか、そういう印象を与えるものを感じている。

・定時制・通信制課程について、色々な課題や困難を抱えて、正しい学習を継続、あるいは充実させたいという生徒が入ってくる一方で、そうではない層も相当に多いというのが現実。例えば、全日制、あるいは定時制を続けられない、ドロップアウトのように客観的に見えるような生徒が通信制に入ってきて溜まっていってしまう。実質的には科目の履修登録はするが、学習はしないという子が非常に多い。一方で何かやりたいことがあって、通信制、私学の広域の通信制も含めて選択している子は非常に学びが前向きと思われる。そういったことを意識して考えていかないといけないものと感じている。

◎ 学校規模の考え方に関する主な意見

・小規模でも充実した学校はいくつもあり、2学級、3学級でも地域にとっては活力になるし、地域資源を大きく活用できるコミュニティスクールもあるので、地域の力を学校の中で活用するというような基本的な考え方を、いかにして工夫しながらできるかを幅広く考えていきたいと思っている。

・少子化になった時にどうやってそれを絞っていくかという今、適正規模というラインを決めようとするのはとても難しいのではないかと感じている。適正規模を定めるよりも、小規模校に対してどういう手厚いことができるのか、大きい学校はどのようにやっていくかというところで、方向性をそれぞれ作っていくのも1つの考え方と思う。実際に運営していく中で、生徒数が少ない学校は、教育活動が限られてしまう部分はあるので、そこに支援をしなければならないと思う。2クラスはダメだ、3、4クラス以上じゃないとダメだということは無いと思うので、その支援をどうするのか、どれだけ支援をできるかが重要になってくる。

・今、登米市では小学校1年生から中学校卒業まで同じクラスで過ごす学校が少なくないため、決まった人間関係で9年間過ごした後に入る高校は、やはり複数のクラスがあって、色々な人と関わり合えるチャンスと考えている。

◎ 小規模校の活力維持に関する主な意見

・統合や配置を考える中で、遠隔教育は一つの大きなツールになると考えている。遠隔授業は教員の負担も多く、配信校になる学校は大変であるため、県で配信センターのようなものを作り、配信専門に行う教員が居ると非常に良いと思う。配信授業に当たっては事前の勉強も必要であり、教員の研修が必要だと思う。オンライン授業については、これからより良くなっていけば小規模校に対しては効果があるものと思われる。

・他県の過疎地域における遠隔授業のプロジェクトに関わっているが、オンラインでできること、できないことが見えてきていると思う。教育目標に合わせて、リアルタイムのオンライン、オンデマンドのオンライン、対面での授業を使い分けて、ブレンディッドラーニングを保証するためのベストブレンドを探していくことが重要だと思う。部分的には対面を超えることや対面に近い形での代替の可能性が出てくるのではないかと思う。

次期県立高校将来構想における学校配置・学校規模の考え方

基本方針

- ・県内どこに住んでいても生徒の興味・関心や多様な進路希望に対応できる教育機会の確保
- ・圏域を基本として、大学進学に対応できる進学重点校、地域産業を支える人材を育成する専門高校・専門学科、多様な教育ニーズに対応できるidealスクールや定時制高校の配置を検討
- ・時代や地域のニーズに対応した魅力ある県立高校づくり

学校配置の考え方

普通科の在り方・魅力化

- ・圏域を基本として**進学重点校**の配置・強化の検討
- ・地域探究やグローバル探究等の**普通科改革**、難関大学への**進学コース設置**、他圏域の進学校等との**遠隔授業**や**相互交流**などによる魅力化

専門学科の在り方・魅力化

- ・複数学科を統合した**職業教育拠点校**設置の検討
- ・多様化・高度化する産業構造に対応できる**先端技術の習得**、地域（市町村、企業、大学等）と連携した**キャリア教育の強化**（実社会で様々な体験ができる専門学科など）、社会で活躍できる人材育成（分野横断的な知識の習得・国際的視野の拡大など）に向けた**学校間・学科間連携**などによる魅力化

多様な生徒のニーズへの対応

- ・定時制・通信制高校の在り方の検討
- ・**idealスクールの横展開**などによる魅力化

小規模校（1学年1学級）の配置

- ・通学困難地域の小規模校存続の検討（市町村との協力体制の検討）
- ・**I C Tを活用した授業の配信**（**配信センターの設置**）や**学校間連携**などによる魅力化

学校規模の考え方

- ・1学年当たりの**適正な学校規模の目安**（現在は4～8学級）は設定しないものの、活力ある教育環境を確保するために地域の実情に応じて**一定の学校規模を確保**する。
- ・**通学困難地域においては小規模校の存続**（又は**通学手段の確保**）を**検討**する。